

以上で、和泉議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩いたします。

再開を1時といたします。

〈午前11時55分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、伊藤 麗議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。〔6番 伊藤 麗君登壇〕

○6番（伊藤 麗君）

清新クラブ、伊藤 麗です。

事前に提出いたしました通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、第3次総合計画 2つの重点課題について。

市は最重要課題である人口減少・少子化に対応するために庁舎内に人口減対策推進体制を組織しました。

最重要課題が、人口減少・少子化であるということについて私も同意見であり、第3次総合計画にある2つの重点課題とされる人口減少対策と住み続けたくなるまちづくりに対してどのように取り組むのか伺います。

(1) 人口減少対策プロジェクトが今の段階で情報収集・分析したことと、来年度に向けての方向性を伺います。

(2) 3つの重点項目を健康・地域経済・教育とした理由と、人口減少対策と住み続けたくなるまちづくりに通じる取組や施策を伺います。

(3) 市として、今後特に力を入れる分野を伺います。

2、学び方の選択肢について。

糸魚川市教育委員会は、7月14日上越教育大学で「不登校特例校」についての学習会と妙高市立新井南小学校で「小規模特認校」の市外視察を行いました。

また、総務文教常任委員会は、8月17日委員会協議会で、この春、糸魚川市で開校したフリースクールに関わるTUMUGUプロジェクトの皆さんとの意見交換会を行いました。

糸魚川で学ぶ場所、学ぶことを選択肢が増えることは、いじめや不登校児童の減少につながると考えることから、以下を伺います。

(1) 不登校特例校及び小規模特認校について、市内での実現可能性はどの程度か、視察後の検討状況を伺います。

(2) フリースクール等利用支援補助金を創設する考えはあるか伺います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、人口構成、人口動態のほか、児童生徒の進路や若者の結婚に対する調査・分析を行っております。

また、来年度に向けて、Uターン促進による担い手確保、若者の出会いや交流のサポート、郷土愛の醸成とキャリア教育の推進を検討いたしております。

2 点目につきましては、少子高齢化や人口減少が進むことによる諸課題に横断的に取り組むものでございます。人口減少対策と住み続けたくなるまちづくりに向けて、健康づくりの推進、医療体制の維持、地域で支え合う福祉の推進、子供を産み育てやすい環境の整備、活力ある産業の振興、自主・自立の市民活動の推進、安全・安心な市民生活といった施策を展開いたしております。

3 点目につきましては、持続可能な糸魚川に向けて、インフラや社会機能の維持に向けた取組や、25歳から34歳までの人口構造を改善していくための若者の定住、Uターン促進を図ってまいります。

2 番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

2 番目の 1 点目につきましては、不登校特例校や小規模特認校については、今後も調査や情報収集を継続するとともに、検討委員会を立ち上げ、課題解決に向けて進めてまいります。

2 点目につきましては、利用補助金の必要性等について検討してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6 番（伊藤 麗君）

それでは、番号 1 について再質問を行います。

前回の議会でも、ほかの議員とのやり取りの中で、人口減少を諦めないという渡辺部長の答弁がございました。全国的にも人口が減少していて、昨今では人口を増やすというふうに掲げると、世間知らずだとか、そういった風潮も、かえって感じるようにも思います。その中でも、ただ人口減

少を諦めないという姿勢を見せるということはとても大切だと考えております。そのほか議員とのやり取りの中で、渡辺部長の答弁を拝見しながら、第三次総合計画のダイジェストを拝見いたしました。そうすると、ご答弁の内容とその計画がぴったりと合致しておりまして、さすがやはり計画をやっぱりつくって、皆さん当たり前かもしれないんですけども、しっかり自分の言葉としてご自身の中に持っていらっしゃるんだなというふうに改めて思ったところでございます。

そこで、計画からどのように実行につなげているのかというところを伺うために、以下、質問を続けさせていただきます。

(1) についてです。人口減少対策推進体制を組織すると聞き、何か新しい取組が始まるのではないかと期待いたしました。人口減少対策プロジェクトのミッションは何なのか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

これまでも市内横断的に人口減少対策を行ってまいりましたが、企画定住課の企画係、人口減少対策係を企画政策係といたしまして、市内の人口減少対策において各課との調整を行って、プロジェクトチームの事務局を担い、人口減少対策プロジェクトを進めていくというものでございます。

プロジェクトとして取り組んでまいることは、人口減少、少子化対策事業の新設及び再編、それからプロジェクト推進に向けた取組及び効果検証、そして情報発信ということで取り組んでまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

児童生徒の、1回目のご答弁の中で、児童生徒の進路というふうにご答弁あったんですけども、昨日の糸魚川タイムスに、ちょうど企業が学生に対して行う有効求人倍率が4.62倍の高水準と伝えました。学生にとっては、希望の就職がかなう確率が高いというふうに言えることになるとは思いますが、市として進学よりも地元就職を促進したいのか、何が課題なのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

現在、プロジェクトの中で情報を収集して、分析している項目の一つとして、児童生徒の進路といったところも、数字のほうを確認をしながら進めているところでございます。令和5年3月の数字ということになりますけども、市内3高校の高校生の進路では、7割以上が進学といった数字になりまして、そのほかの方々が就職をされていると。その就職者のうち、市内企業への就職者とい

うのが半分と、約半数ということがデータとしても確認をされてまいりました。

このことから、高卒者を中心に市内企業への就職というのを働きかけましても、人数としてはなかなか多い採用を望むことが難しい。実際の採用はなかなか難しいといったことになってくるものと考えております。

ただ、相変わらずといいますか、今ほど議員おっしゃられたように、市内企業におけます人材の求人状況としては、高い数字になっておりますので、高校生が進学をするということ、または就職をするということ、どちらのほうを、重きを置くということはなかなか難しいところではありますけれども、いずれにしても人口減少対策、持続可能な糸魚川のために、市としても取り組めることはないかということのを改めて検討しているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

進学する人が多いというのは、別に悪いことではないと私も捉えております。

ただ、就職を希望している子たちの半分が市外に行ってしまうというところは、やっぱりどこか寂しいところもございますので、その部分、市内の企業さんとも意見交換などしながら、市内での就職をどのように働きかけるかというところは、今後とも検討課題として取り組んでいただければと思います。

結婚支援についてもお伺いしたいんですけれども、さきの議会の一般質問の中における田原洋子議員とのやり取りの中で、妙高・上越との連携、コーディネーターの加配、SNSでの発信強化の必要性について指摘されていると思うんですけれども、その後の検討や具体的な施策の実行など、アクションがあるかお伺いしたいです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

上越3市におきまして、結婚を促進する事業を共同でできないかといった提案を3市の、担当レベルではございますが、相談をさせていただいてはいるところでございます。なぜかといいますと、やはり糸魚川市単独で婚活事業を行っていくとしますと、やはり集まっていただけの方というのもちょっと限られてくるといったこともございまして、2市のほうに今、働きかけをするといったことで動いているんですけれども、逆に、妙高市さんのほうは、NPO法人もございまして、そういったところで積極的に取り組んでいる事例がある。また、上越市さんのほうでも、今年度から少し力を入れていきたいといったお話も伺っておりますので、引き続き話をさせていただきながら取り組んでまいりたいというふうに思っております。

また、先ほどのプロジェクトに絡みますけれども、若者の意識調査といったところの数字もちょっと分析をさせていただいております、なかなか結婚するつもりがないといった若者層が増えていくといった現実もありますけれども、引き続き、やはり結婚したいという方も一定数、8割以上

といった数字でおりますので、そういう方々が希望、そういう方々の希望をかなえられるような取組というのを、引き続き検討してまいりたいというふうに思っておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

結婚、出会いについてなんですけれども、市内の若者が集まったところに出向いた際に、やっぱり出会う場所が、若い人と出会う場所がないという声が上がってきていまして、彼らの話を聞いていると、従来型のやっぱりお見合いパーティーのようなものとやっぱり参加しづらいということ、既婚者も子連れも、分け隔てなく若い世代の人たちが集まって、その中で自然な形で出会うというようなイベントを企画していきたいというお話を伺っております。

今、県や市にもあるのかちょっと私存じ上げないんですけれども、婚活を目的としたイベントに対しての助成を行っていると思うんですけれども、助成の、受ける条件に合わせていくと、やっぱり従来型の出会いの場創出という形でのメニューにどうしてもしなければ、支給を受けることができないような内容になっているので、また糸魚川独自で、例えばちょっと間口を広げても出会いを創出するという意味で婚活支援として助成するとか、そういうふうな制度設計の中で、今回、若い世代の結婚に対する支援も、年齢の上限を撤廃したりとか、糸魚川独自で判断されたところなんですけれども、婚活支援においても、糸魚川なりに考えた今の時代、今の若い人たちの感覚に合った施策に制度設計を合わせていくというのもいいと思うんですけれども、それについて、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

婚活支援についての取組というところでございますけれども、これまでも婚活支援の取組として、ハッピー出会いコーディネート事業といったことで、例えば男女の出会いの場を創出していただく取組に対して補助、支援をさせていただいたところでございますが、今ほど議員おっしゃられるように、明確に男女の出会いの場を設定しますので皆さんお集まりくださいといった形にしますと、なかなかお集まりいただけないのが現状となっております。

そこで、昨年度まで、つながる若者応援事業とか、そういった形で少し緩く男女、そういう婚活を打ち出さずに集まっていたいて、交流を通じて異性との出会いを達成していただくとか、そういった取組もしてみたいんですけれども、なかなか、逆に今度、目的を明確にしないと集まらない、人数が集まらないといった現状も出てまいりました。

ただ、先ほど申し上げましたように、上越市のほうでも今年取組を始めるということで、先般も上越市の青年会議所さんですかね、取り組むチラシを見させていただくと、本当に婚活というところをうたわないで募集をかけて、それでいて、中でやる取組の中で少し婚活に触れていくといった形もやっておられるようです。そういった取組も少し参考にさせていただきながら、今後の取組に

については考えていきたいというふうに思っております。

また、SNSというお話もありました。おっしゃるとおり、今どきの若い方々、出会いがないと申しましても、やっぱりいろんな場面で何ていうんですかね、スマートフォンを活用したりというところが出てきてるかと思います。

市でもハートマッチにいがたというところの入会支援を行っておりますけれども、それ以外にも、やはりアプリを使った出会いサイトというのものもあるようでございます。そういったところを研究したり、以前一般質問でもありました仮想空間での出会い、婚活事業なんかも行われているというところもございますので、そういったところも含めて、引き続き研究・検討してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

先ほどのお話の中にアプリを使った出会いサイトもあるというお話あったんですけども、今、若い世代では、インスタグラムを、今までは皆さん多分、出会った人と電話番号を交換したりとかメールアドレス交換したりとかされていらっしゃったと思うんですけども、今の若い人たちってインスタグラムのアカウントを交換して、そうすれば、その人の投稿とかが見れるので、何となく相手のことが分かるというところで、出会ってすぐ交換するのがインスタのアカウントだったりしているのが実情です。

新潟県においても、アプリ、フェイスブックを使った情報発信してらっしゃるんですけども、若年層はもうフェイスブックなかなか使わないので、インスタグラムだったりだとか、また違う今の若い子たちに合った情報発信の仕方を研究していただければと思います。

それでは、（２）についてです。ご答弁の中にもあったんですけども、医療、仕事を作る、市民活動の推進、福祉、観光、教育、とても大切だと思っています。特に子育て、教育については、私自身のテーマでもありますので、ここではちょっと触れないんですけども、医療の充実に関して、住み続けるという意味で、非常に大切な要因だと考えます。地域医療構想の中における糸魚川市の医療は、周産期医療を含め、課題が多くあると思いますけれども、国や県や医師、賢い人たちにこれはもう仕方ないんだよというふうに言われると、何か理解しなきゃいけないのかなとか、諦めなきゃいけないのかなという気持ちに私もなりそうになるんですけども、迎合してはいけなないと私は思うんですね。

米田市長におかれましても、私は同じ気持ちだというふうに思ってるんですが、毎回毎回医療のお話で市長にお話をお伺いして申し訳ないんですけども、この医療に関して、私はそういうふうに思ってるんですが、市長におかれましてはいかがか、お考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

医療のこの日本における現状というものも、私も非常にいろんな機関やいろんな方々と話をさせていただく中においては、現状をしっかりと理解をしておるつもりでもあるわけであります。そういう中で、我々の糸魚川市にとって、地域医療はどうあるべきかというところが、やはり私は、決してこれを覆してといたしまししょうか、国の今、方向がこうだからといって、それに流されてはいけないと思っております。それはそれであっても、糸魚川の、やはり住み続けられるまちをどう考えていくかの中においては、やはり地域医療というのは大きな事柄の一つであるわけであります。安心して、そして、安全である町でなければいけないわけであります。その地域医療は、一番やはり中心にあるべきであるわけでありますし、そのことを頭に置きながら進めていきたいと思ひますし、そして、厳しい環境であることは間違いない中であるわけでありますが、どうしてもここでは、なくしてはならない診療科目というのをやはりしっかりと我々は、この糸魚川市に残していけるような、残していかななくてはいけないために今、対応していきたいと思っております。それは、ただ単に糸魚川総合病院のみならず、医師会の皆様方とも、そういったところは取り組んでおると捉えておる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

私も糸魚川の地域医療構想策定について、以前から提言しておりまして、担当課から、現在、各関係各所と調整に入っている段階というふう聞いておりますので、あえてここでの質問はいたしませんけれども、引き続き注視してまいりたいと思ひます。

次なんですけれども、産業の振興についてお伺ひしたいと思ひます。

こちらに関しては、大卒者の働く場所がないというふうな声をよく耳にするんですけれども、市内の働く場所の整備、拡充について、今後の見通しを伺ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

ハローワークの求人情報等を見ましても、当市での大卒、短大卒、また専門学校卒業生の求人の募集は、毎年一定数出ているものだというふうには捉えております。特に、がんばれ！ニューフェイス、新規学卒者激励会なんですが、その参加者の数からも、大卒、短大卒、専門卒の方は、ここ数年、20人から、多い年は50人程度参加しておりますので、予想以上に就職されているのではないかなというふうには捉えております。

議員おっしゃるように、しかし将来的にそのような高等学校教育を受けた方が戻ってきて、糸魚川市で就職するためには、やはり今現在の現状を改善する工夫や、また新たに働く場所の創出が必要ではあるというふうには捉えております。そうすることによりまして、全ての経済活動につながっていくものではないかなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

既にある市内にある事業者さんでの求人が、十分にある状況ということであれば、それはそれですごくいいことだと思うので、その中で大学生がうまくマッチする企業を見つけられるように支援するというのが、行政、していただけるとありがたいなと思います。

また、こっちに帰ってきたいんだけど、例えば自分で起業したいとか、そういう思いのある学生に対してなんですけれども、例えば東京大学では、在学中にゼミの中で学生に起業させるそうです。

また、福岡市の創業支援の取組は、非常に手厚いのでご紹介をさせていただきたいと思いますが、1、無料相談ができる。2、創業前後の各種サポート、これサポートのメニューめちゃめちゃありました。3、イベント参加・開催。4、コワーキング利用ができる。それができるスタートアップカフェという拠点があります。大学生であれば、市内の親元に住民票を置いているという方も多くいらっしゃると思いますので、市内に住民票のある学生向けに、このような取組をされてはどうかと思いましたが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今ほど、様々な自治体で新規の高学歴者の就労につきまして、制度のほうを設けております。

当市といたしましても、各種制度のほうは設けておりますが、今アドバイスがありました全国的にうまくいっているところの事例を参考にさせていただきながら、新たな取組につなげていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

福岡市を今、引き合いに出させていただいたんですが、福岡市はすごく大きい都市ですし、国家戦略特区でもあるので、もしかすると、もうそのままの取組を糸魚川で実現するというのは、本当に難しいことなのかなとも思うんですけども。それでもできる部分から取り組んでいくということは可能だと思うので、ぜひ前向きにご検討をお願いいたします。

次なんですけど、一次産業の担い手確保についても伺いたいと思います。

糸魚川市内でも有機農業がやりたい人、純粹に大学を卒業した後の就職先として市内農業法人を選んできてくれた人、縁があつて働く人、あと、今ちょっとうわさレベルなんですけど、内水面の分野にも若い方がいらっしゃるよううわさを聞いております。

地域おこし協力隊を高倉地域に今年度採用予定だったと思いますが、採用状況を教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

今ほど議員のほうからお話ございましたように、一次産業では、高齢化に伴います担い手不足が課題となっております。市でも新規就農者の確保ですとか経営継承の取組が重要と考えまして、各種補助制度によりまして、支援をしております。

また、農地、林地、港湾等の産業基盤の整備を促進いたしまして、作業の効率化に伴う経営所得の向上を目指すことで、産業の振興につなげたいと考えております。

今ほどお話ございましたが、高倉地区におきましても、先ほどのお話と同様、担い手不足ということで悩んでおりまして、8月に行われました東京での移住フェアへも地域の方から参加していただきまして、糸魚川市、また高倉地域の売り込みを行っております。

地域おこし協力隊につきましては募集しております、2名の方から移住体験ということで、一晩ずつお二人の方、泊まっていただいております。

ただ、なかなかやはり地域の希望する作業と、また手挙げをされた方の希望が、一部マッチしないところがございます、まだ正式な応募に至っていないというような状況になっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今年1月に茨城県石岡市、朝日里山ファームを視察してまいりました。NPO法人が、委託業務で荒れた畑を整備しつつ、45歳までの有機農業に2年間従事する人の受入れを続けています。移住のタイミングは、農業をしっかりと体験できるように2月というふうに決まっていて、丸2年を経験してもらい、対象者は家族に限定しているとのことでした。1年に1組ずつ受け入れるので、2組の家族が仕事を共にするような形になっています。

対象者を独身ではなく家族に限定したところから、定着率がぐっと上がったこと、農業が移住・定住策と相性がいいことをそこで聞いてまいりましたが、糸魚川市として、このような取組をしてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

市におきましても、各種農業法人のほうへ研修生の受入れということでお願いをしております。なかなか研修生も、このコロナ禍の関係もあって、ここ数年停滞しておりますが、そうした中で、独身・既婚にかかわらず、研修生の受入れをしたいというふうに考えておりますし、地域おこし協力隊につきましても、ご夫婦、既婚者の方が手挙げをされる、また応募されるというケースもございますので、そうした既婚・未婚にかかわらず、そうした制限を設けずに、今後も糸魚川市で新た

に農業をやっていただける方を募っていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

糸魚川市としては、ご夫婦だとか制限を設けないという、そういう方針だということで理解いたしました。

私のほうから、もう一つご提案させていただきたいんですが、「おてつたび」というサービスについてちょっとご紹介させてください。

「おてつたび」は、観光から一步踏み込んだ地域に入り込んで、仕事を通して体験してもらうサービスです。市内でも農業法人、宿屋、道の駅など幾つかの事業所さんが取り組んでおります。関係人口の創出や、繁忙期の人手確保として利用しているということです。事業所が、賃金はもちろんのこと、交通費、宿泊費を負担することが必要なんですけれども、その部分での支援は、行政にお願いできないのか。または、自治体連携して、例えば地域おこし協力隊を共同で募集するというような事例もあるようなんですけれども、朝日里山ファームのようなことが純粹に市内の事業者と行政でできていけば、最もいいと私も思うんですけれども、そのきっかけづくりに「おてつたび」を市としても推進してはいかがかなというふうに思うんですけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今ほどのお話の「おてつたび」ニュースやネット上で話題になったときに、私のほうも確認させていただきました。やはり旅をしながら若い方たちがアルバイトをして、やりたいこととマッチングするサービスということで、とても関係人口をつくるには面白い事業というかサービスだなというふうに思っております。

繁忙期に臨時の方を雇って、短期間にお金をもうけて潤うというのは、昔で言えば出稼ぎみたいなものかなというふうに思っております。そのような経済活動は、古くから行われていたと思います。そこに私らみたいな行政が、行政の支援がなければ、そういった動きといいますかサービスができない、継続できないとなれば、やはりそのようなサービスは、私らを利用すべきものではなくて、従来の地域のコミュニティを活用していただいて、地域の方たち、お母さんだとか高齢者の方をお願いして、その活動を営んでいけばいいんじゃないかなというふうに今のところ考えております。

市としましては、市内企業の安定的な雇用や採用の支援のほうを第一に取り組んでおりますので、そちらについてはぜひご理解いただきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

最初のほう結構厳しめだなというふうに思いながら、ご答弁聞かせていただきました。糸魚川市としての考え方に関しては、承知いたしました。

それでは、市民活動の推進、工夫や施策があるか伺いたいと思います。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

市民活動の推進ということでありまして、市としても総合計画の中でも協働の取組といった形で記載をさせていただいております。各施策において、市民ですとか、それから団体、事業者の皆様様の役割、それから行政の役割といったところを明記して、協働の取組といったところを推進しているところでございます。

企画定住課のほうで、例えば取り組んでいるものとしましては、若者の力による地域活性化交流事業ですとか、まちづくりパワーアップ事業、そういったところが市民活動を促進する、推進する取組になってこようかと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ありがとうございます。ワカチカについて、あとパワーアップ事業について取り組んでいらっしゃるということで、これを、何ていうのかな、受けた団体の皆さんの今の活動が、継続的であって、なおかつワカチカを受けた団体の中には、5年の助成を全部受けずとも、自立して、もう必要ないんだというような団体もあるというふうにお聞きいたしまして、非常に行政としては、すごくいい取組で、いい施策なのかなというふうに感じました。

補助金を出すというのもすごくありがたいですし、大切だと思うんですけども、例えば市民大学、まちづくり大学、以前取り組まれて、外部から講師を呼んだというようなお話聞いたんですけども、市民の中から講師を選んで、市民大学、まちづくり大学なるものを実施するのはどうかと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

市民大学といいますか、地域づくりに関連しまして、市民の皆様を対象として、地域づくりを学ぶ取組というのを以前したことがございました。県内で開催されているものを糸魚川市で開催した

ものでございました。NPO法人が主催をさせていただきまして、糸魚川市のほうでもサポートさせていただいたといった形でございます。

その際には、先ほど申し上げました、例えばまちづくりパワーアップ事業ですとか、若者の力交流事業に参加されている団体の皆様にもお声がけをさせていただいて、そういう地域づくりの取組を学んでいただくといったところ、座学と実技になりますけれども、そういったところをやっていたところでもございました。主にやはりワークショップを通じて話合いを促進していただくといったところがメインでございましたので、今ほど委員おっしゃられたように、市民の方々が何かそういう話合いをして、目的に向かって取組を進めていきたいんだといったお話がございましたら、市の職員のほうでも、ある程度のファシリテーションは取り組ませていただいているところがございますので、ご相談に乗らせていただきながら、また、何回も継続してやりたいんだといったお話があったりすれば、その辺もご相談させていただければというふうに思っております。一定数、市内でも以前に研修を受けられた方というのもいらっしゃるんで、そういう方々とも連携しながら取り組めればというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

話合いの促進について、手助けもウェルカムだということなんですけれども、これもっと周知してもいいんじゃないかなというふうに思いました。

次の2の質問の中で触れようかなと思っていたんですが、廃校の活用ってなったときに、地域の合意形成が必要だってなったとき、気持ちはあるんだけど、その部分でくじけてしまってる方が、市内にも恐らくたくさんいらっしゃるんじゃないかなというふうに思うんですよね。廃校を活用したいという意思がある人を行政も見つけた段階で、そのまま放ったらかしにしないで、例えば地域から声が上がってくるまで見守ってるというスタンスではなくて、そういう情報を察知した時点で、行政からもどうなってますかとか、例えば地域との合意形成で苦戦していらっしゃるようであれば、その部分に手を差し伸べて差しあげたりするような後押しというのは必要だと思うんですけど、もっとそこをできるよと周知したほうがいいと思うんですけど、どうでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

これまで取り組んできましたそういう話合いの促進といったところは、最終的に地域づくりプランといったところを目指して取り組んでいたところでもございました。

今ほど議員ご提案の中で、こちらのほうでもそういうところをご相談に乗らせていただくというふうにお答えいたしましたけれども、項目といたしますか、検討する題材にもよるのかなというふうにご聞きをいたしました。例えば廃校の活用ということになりますと、本当に地域と行政も一緒になってということにはなりませんけれども、各年齢層ということも大変大切になってくるのではない

か。そういったある程度の人数を集めていただいたり、そういう場面であれば、なおかつ、どうい  
うところを最終的に求めていくんだといったところを含めまして話合いをしていくといった形にな  
ろうかと思います。そういった際には、いろんな方々おられますので、話合いのワークショップで  
あったり、話合いを促進するためのファシリテーターであったりといったところのお手伝いはでき  
るかと思いますので、またご相談をいただければというふうに思っております。地域づくりの一環  
として、またお話しいただくということも可能だとは思っておりますので、何にせよ、こういう話合いを  
ある程度の人集めてやりたいんだといったところの中では、ワカチカという補助金の事業もあり  
ますけれども、私どもとしては、地域の方々が話合いをしていただいて、地域のことを考えていた  
だくというのは非常に大切だというふうに考えておりますので、ご相談いただければというふうに  
思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

何か普通に、何かもう何でも相談来ていいよって言ってあげたらいいじゃんって思っちゃったん  
ですけど、その部分どうでしょう、市長、もし何かあれば。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

若い人たち、またいろんな人たちが何かに取り組みたいという気持ち、大切なことだと思ってお  
ります。そういった人たちをどのように吸い上げていくかというところが、やはり大事だと思っ  
ております。

しかし、持続可能なまちづくりであったり、やはり地域づくりという形の中においては、その  
住んでおる人たちが、しっかりと持続していくような形の中において、地域がどのように支援をし  
ていけるのかという、やはり我々行政といたしましては、そういうところにつなげていただきたい。  
やる内容は何でもいいんですよね。それが地域で支えていけるものであったり、参加しなくてもい  
いけれども、我々理解しながら応援してるんだという、やはり最低限のものがあって、地域の中  
の位置づけはどうなんだというようなものの仕組みをいただきたいなど。ただ好きな事柄について  
の取組というのは、またそれはそれで応援していくものがあっていいんじゃないかなと。そういう  
やはり少し分けてお考えいただければありがたいと思っております。内容については、千差万別あり  
ます。スポーツであれ、太鼓であれ、もつともつと違ったものでもいい。地域にとって、じゃあそ  
の若い人たちがそこに住んでいける中において、我々が住んでる人たちが、どのような応援が  
できるのか。そういう形が見えることが、行政も応援できる形になっていくんだらうと思っ  
ております。ですから、全てのものはやはりどういった形の中で対応できるかという、やっぱりあるんですが、  
その辺をちょっとすみ分けていったほうが、形としては私はいいいんじゃないかと思っ  
ております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

何か、例えば若い人たちに限らず、地域で何かしようと思ったときは、それに関わるような担当課がどこか、かかわらず、訪ねていけば応援したいという気持ちで応援していただけるものだというふうに理解いたしました。

では、もう一つお伺いしたいです。

人口減少対策という観点ですと、U I ターン、観光、関係人口の創出というところに目が向きがちなんですけれども、今、糸魚川に住む人の幸せを高めて、住み続けたい糸魚川にするという視点では、福祉分野の施策も重要と考えます。子供、若者はもちろん、お年寄りに対して、あなたは糸魚川市の大切な市民の1人ですとお伝えするのと、同義的な施策があるか、こうやって聞くと難しいなって自分でも思ったので、例えば住み続けたい糸魚川にするための福祉的な視点での施策というのをお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝福祉事務所長。〔福祉事務所長 磯貝恭子君登壇〕

○福祉事務所長（磯貝恭子君）

お答えします。

総合計画の第1章の中で、誰もが生き生きと暮らせるまちづくりとありまして、その中で、地域で支え合う福祉の推進ということを、こちらのほうでもうたっております。例えば生活支援体制整備事業など、高齢の方を含めた地域住民の方が、主体的に地域づくりの活動をするという事業を支援する取組をしておりますが、そのようなことをしながら、糸魚川で暮らす地域の方が幸せにいられるような事業をいろいろ取り組んでいくことが、人口減少対策であり、住み続けたいまちづくりにつながるものと考えて、事業のほうを推進しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

最近、私のところに市長と同年の方から、元気に働いていて、今も現役で、とっても元気で、お給料もしっかり稼いでらっしゃって、そういう年寄りにも、何ていうのかな、糸魚川の市民として、自分は貢献できると感じられるような何か取組とかというのはないのかと聞かれたんですが、そういうものというのはございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝福祉事務所長。〔福祉事務所長 磯貝恭子君登壇〕

○福祉事務所長（磯貝恭子君）

お答えします。

先ほど和泉議員の質問でもありました、生きがい、やりがい、また就労という部分で、本当に今、高齢の方も、まさしく地域の人材として活動していただいていることは、本当に感じております。いろんな分野で一人ひとりが貴重な人材であると認識しておりますが、それをどう表彰するかとか、どう認めていくかというところは、いろいろな、また表彰のそれぞれの分野での表彰の場面がありますし、またいろんな活動の紹介の中で触れられればいいのかなどと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

（3）に移ります。

一度目の答弁で、インフラや社会機能、持続可能な糸魚川にするために、担い手の確保が重要だというご答弁いただいたので、お伺いしたいんですが、技能実習生の今受入れの状況についてお伺いしたいと思います。

今年度からサポートセンターも設置されて、稼働している状況かと思っておりますので、企業への聞き取りの状況などを踏まえてお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今ほどご質問のとおり、市内の製造業、建設業におきましては、担い手不足が問題になっております。そのような中で、技能実習生につきましては、7月末現在なんですが、180人程度、市内のほうにはおります。

また、本年、サポートセンターということで、4月から設置しております外国人材雇用支援アドバイザー事業では、毎月の企業訪問、各地域を回りまして、訪問と定例の相談会のほうを月1回ですが、開催しております。毎回相談あるわけではありませんが、やはり企業を回って、その企業の相談を聞くということも、また業務でありますし、また、毎月相談会開いておりますけど、毎月相談来られる企業もそんなにございません。

ただ、やはり不安に思われて、相談される企業は多々あるというふうに聞いております。いずれにしましても、雇用につきましては、人と場所の確保がとても重要であり、外国人労働者につきましても、労働力がさらに不足すると見込まれますので、早めに取り組むのほう、今年からまたギアを一段上げながら進めていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

通訳と生活面でのサポート団体の方も、企業と外国人のすれ違いやミスマッチを軽減すべく、ワークショップの開催を予定していると聞いています。恐らく担当課、商工観光課あたりに相談が行っていると思うんですが、こういった市民の取組に対して、市はどのように関わっていこうとお考えかお伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今ほど議員のお問合せの関係のイベントにつきましては、開催の計画を練るときに、事前に相談のほうはいただいております。

ただ、今回相談いただきましたのは、今年度入ってからのことでございましたので、予算的な措置もできなかったことから、残念ながら今回は後援ということで、その事業につきましては見守らせていただきたいと思いますと思っております。

新年度につきましては、改めてその結果を見まして、市としてどのような関わり方がよろしいのかということを検討させていただきたいなと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

1回目の質問に対する回答が担い手の確保だったので、聞かせていただきました。

私が、今後、糸魚川市に力を入れて、入れていただきたいと思いますことは、何か一つ課題、もしくは夢、魅力を選定して、それについて強烈にPRしていただくことです。

市長にお伺いしたいんですけども、人口減対策や住み続けたくなるまちづくりの要になる、糸魚川らしさを象徴するものが何とお考えかお聞きしたいです。中の人にも外の人にも強烈に訴えていきたいことは何でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

強烈に訴えていける唯一無二なものとはというようなご質問でございますが、私は、糸魚川の愛着と誇りが一番だと、私は捉えてまいりました。と申しますのは、市民の皆様方、若い人も高齢者の皆様方におかれましても、やはり今非常に知識が豊富で、そしてまた、情報が非常に多く持っておられて、そういう中での、やはり地域間であったり、そして地域のそうしたものに対しましても、情報をしっかり持っておられるわけでございますので、非常にそういった意味では、私は糸魚川の、糸魚川市内にある資源というのは非常に豊富にあると思っております。自然資源は当然であろうと思うわけでございますが、いろんな活動であったり、そしてまた歴史文化であったり、そういうも

のが非常に多くあるわけであります。

また逆に、多くあるということと、そして、そういう知識を持った方々が多いということは、非常に、また逆にいろんな考え方の方がおられるわけであります。そういったところを考えたときに、私は全て糸魚川にあるものをブラッシュアップしていく必要があって、そして、やはりそれを本当の一つ一つ魅力あるものにしていくことが大切であるということで、捉えておるわけでありまして、そういう中においては、今少し飛び出たのは、ヒスイであったり、そしてまた、我々のこの地質・地形であったりいたしておるわけですが、まだまだ農業の面であったり、また林業の面であったり、そして水産の面であったり、そして我々のやはりこの工業も、非常にこの全国に誇れるような企業もあるわけでありますので、そういったものをしっかりと魅力として、当然、糸魚川市民の皆様方には当然なんです、そういったところ、そしてまたさらに、それを全国に発信していくことが我々の行政としての役目でもあると思っております、その辺を絞り込むというのは難しいなと思ってるんですが、そういうできるものからブラッシュアップをしながら、魅力あるものとしてつくり上げていきたい。それが持続可能なまちづくりになっていくのではないかなと思っておる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

私も市長と同様で、糸魚川市はたくさん資源があると思っております。その中で市長のご答弁は、全部磨いていって、結果的にどこが光るかというところを大切にしていきたいということと、あと愛着とか誇り、そこに住む人たちを大切にしたいということなのかなというふうに自分なりに解釈するんですけれども、1つ、また取組をご紹介させていただきたいと思っております。

加賀市新幹線対策室について、ご紹介させてください。

加賀市では、どんな手を使っても加賀温泉駅に新幹線を止めるという活動目的の下、2017年から新幹線対策室の活動報告をユーチューブで配信しています。金沢への嫉妬で焼き上げられた加賀伝統工芸九谷焼など、細部に加賀市のすてきな素直な感情や魅力が散りばめられています。また、市内外の人からのアイデアを募集する。応援してもらおうという雰囲気醸成が、とても上手だなというふうに感じました。

このような取組は非常に有効だと思うのですが、糸魚川市としてお考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

ご提案ありがとうございます。

今回、加賀市の関係のものは、やはり北陸新幹線金沢駅、金沢延伸に向けて、各自治体が多くイベントを開催した中の一つの取組かなというように思っています。

今現状をちょっとお話させていただきますと、今回、敦賀延伸に向けて、沿線自治体の動きというのはなかなかなくて、今お話ありました加賀市のPRビデオにつきましては、とてもすばらしい

ものだなというふうに思っております。山中温泉、片山津温泉を有しております加賀市では、やはり北陸新幹線の金沢駅開業前に、今ほど言いましたようにインパクトがあるものということで、あの有名人をもじったレディ加賀だとか、話題性がとてもあったかなと思っております。私らもそういったものを参考にさせていただいて、何かインパクトのある、プロモーションができればなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足させていただきますが、私も4年間、金沢に住んでおまして、加賀市のことは分かるわけですが、糸魚川みたいに豊富でなく、絞り込みのできる地ではないかなと思っております、その辺の違いが見えておるわけでごさいます、糸魚川も1市2町が合併をして、非常に面積が多いということは、宝物が多い部分がございますので、我々の糸魚川市のやはり売りものがいっぱいあるというものをどうやって情報発信していくかというのも、また大きな課題だろうと思っております。絞り込めたら楽であるわけですが、絞り込めない宝が多いというのは、どのようにしていくかというのも考えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今回、加賀市の取組について知ったのは、実は自分で調べたわけではなく、沖縄の友人が、加賀市面白いよと言って、あの動画を送ってくれました。多分、沖縄の友人からしたら、糸魚川市も加賀市も多分近くの話でしょという感じで共有してくれたんだと思うんですけども、そういうふうにより多くの人目に触れて、面白いとか、私も拝見させていただいて、行ってみたいなというふうに関心しました。

「ブラタモリ」でタモリさんが、新幹線5人しか降りなかったとかということもありましたけど、そういうのを逆手に取って、何か自虐的にでも、ただ何ていうんだろう、あまり悲壮感は出さずに楽しい形でPRできたら、また、市内外の人の興味・関心も引けるのではないかなというふうに関心しました。

もう一つ提案したいんですが、これ以前からお願いはしているんですけども、移住者向けのホームページ、見やすいものの作成をずっとお願いしてきているんですけども、こちらに関しては、検討はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

移住者向けのホームページにつきましては、この4月に移住情報を、糸魚川暮らしをサポートするサイトの「わたしのいと」というところにリニューアルをさせていただきまして、糸魚川での暮

らし、それから働く場所、医療、生活といった生活情報、それから支援制度などについても、そこで紹介をさせていただいているところがございます。引き続き、子育て情報の充実ですとか、また移住を希望される方が移住できるような情報の充実を図ってまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

「わたしのいと」、まだ私チェックしておりませんので、また拝見させていただいて、意見があればお伝えさせていただきたいと思います。

それでは、人口減少対策と住み続けたくなるまちづくりに対しては、既に何年も何年も糸魚川市も真剣に取り組んできております。それでも市民に諦めないというメッセージを示すために、人口減少対策推進体制を設置したと理解しております。今後、この体制組織で抽出された糸魚川の大きな課題、もしくは夢に向かって、加賀市の新幹線対策室のように特徴的で専門的な課やチームが発足されることを期待しますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

おっしゃるとおり、最重要課題ということで人口減少対策に取り組んでいるところがございます。もちろんこのプロジェクトチームだけではなくて、当然でございますが、全庁挙げて取り組むべき課題というふうに思っております。

先ほど来、ご説明をさせていただきました、例えば、高校生の進学、それから若者の結婚観、まだまだいろんなデータを基に人口減少対策のほうを検討して、引き続き事業の新設と併せて、縮小、見直しといったところも併せて取り組みながら、諦めずに人口減少対策、住み続けられる、住み続けたくなる糸魚川の取組というのをしていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

それでは、番号2、学び方の選択肢について再質問してまいります。

子育て、教育の部分なんですけれども、市内不登校児童数は、昨日、こども教育課長とお話しさせていただいた時点で49人ということでお伺いしております。「ひとみかがやく 日本一の子どもをはぐくむために」ゼロ歳から18歳までの子ども一貫教育を掲げる糸魚川市として、現状の不登校児童数やいじめの認知件数について、どのように受け止めておられるか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古川子ども教育課長。〔教育委員会子ども教育課長 古川勝哉君登壇〕

○教育委員会子ども教育課長（古川勝哉君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおり年々増加傾向にあり、全国比で1,000人当たりの発生率は、全国よりは少ないのですが、実数としては多いと思いますし、大変重く受け止めております。

対策としては、今現在、困り感のある児童生徒、それから保護者がたくさんいるわけですので、現在ある対策、そちらのほうを充実させて、一層、これ以上増えないように、発生しないように、学校とも連携しながら、また、関係機関と連携しながら、努力していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

（1）についての1回目の回答に対してなんですけれども、今後も調査・検討を続けていかれるということと、検討委員会を設置するというような回答だったんですけれども、この検討委員会というのは、どのようなものなのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古川子ども教育課長。〔教育委員会子ども教育課長 古川勝哉君登壇〕

○教育委員会子ども教育課長（古川勝哉君）

お答えいたします。

今、不登校児童、いじめられてしまった被害の児童等含めて、どのような学びの場があるのかということで、議員おっしゃるように不登校特例校、それから小規模特認校なども一つの位置づけとして考えております。

検討委員会のほうですけど、今、上越教育大学のほうで、いじめ生徒指導研究センターというのがありまして、大学の先生方が中心になって、いじめ、不登校児童に対する対応、今ほど話しました不登校特例校の設置について、ご指導いただける先生がおりますので、そういう方、有識者の方、それから学校関係者、当然、教育委員会、それから教育委員等も含めながら、その設置の方向、またフリースクール等、そういったところにも視野を広げながら、どのような形が当市にとっていいのかというところを検討していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

古川子ども教育課長に、ちょっと補足をさせていただきます。

議員さんおっしゃったように、7月14日に上越教育大学での学習会、新井南小学校での現地視察ということでさせていただきました。当市の教育課題たくさんあるんですけれども、やっぱり不登校の児童生徒の学びの場、居場所、学校にはなかなか行けないというふうなことを鑑みたときに、どういう環境が、その子供たちにとって必要なんでしょうか。子供の内面をよく丁寧に聞き取ったと

きに、そういったような場所、適切な場所というような部分が浮かび上がってくるんだらうと思います。そのようなその問題意識の下で学習会をし、現地視察をさせていただきました。これからはもっともっと子供たちの居場所づくりについて、視察とか勉強会みたいなものを教育委員会内部でやっぱりしっかり学習していかないという、なかなか今後の方向性についてのことが定まらないだらうというふうに私は考えています。6月市議会の和泉議員のフリースクール、これも、いろんな面で実績を上げている事例がたくさんあります。

それから今、国のほうで適応指導教室は外にあるんですけど、校内に空き教室などを使って、校内適応指導教室みたいなルームを積極的につくりなさいというような国の指針等も出ています。そんなことからすると、いろんなところでの先進的に取り組んでいる学校、あるいは市町村、それぞれありますので、様々な情報収集する中で、糸魚川にとってどういうふうな居場所が、学びの場所が子供たちにとって一番適するののかというふうな部分を逐次、丁寧に検討する中에서도、今後の方向性みたいなものを定めていきたい、見つけていきたい。そういう中で、やっぱり検討委員会というふうな部分を組織しないという、なかなかいろんな人たちの意見が集まりませんので、行政のトップダウンの方式というよりも、みんなのその意見交換の中で、そして専門家のアドバイスを受けながら、糸魚川らしい子供たちの居場所、安心して、いて、学べる。そんなふうな環境は、どのような方向なののかということ、これから一歩ずつ見つけていきたい、探していきたい、いうふうな現時点であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ありがとうございます。

不登校特例校、小規模特認校について、昨日の新潟日報で、柏崎市教育委員会が地域との意見交換を経ずに統合対象校と統合年度を明記した再編方針を策定したというふうに報じられていました。これに関しては、それぞれの自治体のお考えがあるかと思いますので、特に私の考えというのは述べないんですけども、これに対して専門家は、地域代表や保護者、学識経験者らから成る審議会などの議論を経て、具体的な方針を出すケースが多いということを述べていました。

また、今、糸魚川市においては、私、今までも義務教育学校の提案をさせていただいてるんですけども、学校を統廃合するということも喫緊の課題になってると思います。その部分では、その地域のまちづくりビジョンがなくして、統廃合を進めてしまえば、ただの切り捨てになるとも述べられていました。それもあったので、先ほどちょっと質問させていただいたんですけども。

これを受けて、糸魚川市としては、もちろん地域との話し合いも進めていくのかと思うんですけども、検討委員会で調査研究されて、統廃合に関しては、もう地域が、例えばもう統合したいですと言えば、もう統合されてしまうものだと思いますので、その部分を検討をゆっくり悠長に進めていると、小さい学校からなくなってってしまうと思うんですね。その部分で検討委員会から、どの段階まで議論を重ねたら、この専門家の方がおっしゃるような、例えば地域の方も含めた審議会などに発展していくのか、その辺りの時間的なものだったりもお伺いしたいんですけども、その部

分いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

齋本教育長。〔教育長 齋本修一君登壇〕

○教育長（齋本修一君）

お答えいたします。

スケジュール的なもの、あるいは時間的なものというふうな部分のところを今ご指示いただきましたが、今時点で何年度とか、いつまでにというような部分については、ちょっと控えさせていただきたいなと思ってます。

先ほどの検討委員会の件なんですけども、あくまでもその市の全体というふうな部分の視点での討議というか意見交換になると思います。今ほどの小規模特認校というふうなものになってくると、もう具体的にそのエリアというか、その地域が決まってまいりますよね。それはちょっと別の内容のものであって、その部分については、その地域の皆さん方、混乱みたいなものは別の機会に熟議を重ねていかないという、なかなか合意形成という、どのような意見が飛び交うかも分からないし、とにかく地域コミュニティの拠点が学校ですので、それを一方的に、何ていうか切り捨てることは絶対今までもしてこなかったし、これからも糸魚川市のスタンスとしては、したくないというふうな固い思いでいます。

ですから、先ほどの検討会と、今のその小規模特認校については、ちょっと別の視点でもって、関連はもちろんあるんですけども、その辺の部分のところの兼ね合いをちょっとご理解いただきながら、時間的な部分のところはそういった意味合いもあって、今現在お話しできないということでご理解いただければというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

その不登校の子たちの通えるフリースクールであったりだとか、不登校特例校に対する検討は確認いたしました。

小規模特認校においては、新井南小学校を視察していらっしゃったと思うんですけども、こちらに関しては、英語学習に力を入れていて、どちらかというと、この不登校に特化してるというわけではなくて、魅力をつくって運営しているという印象でした。この違いがあると思うんですけど、糸魚川市としては、どちらから取り組んでいくだとか、そういうところの検討も、まだこれからということなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

齋本教育長。〔教育長 齋本修一君登壇〕

○教育長（齋本修一君）

お答えいたします。

どういう特色を出すかというふうな部分、たまたま新井南小学校が外国語の学習から、そこであらんと力を入れて、特色を出して、その教育内容に賛成の方々は、自分の学校区をとっばらって、どこからでも来てでもいいですよというふうな制度で始まったかと思います。

糸魚川市の場合は、今現在、どの学校も特色のある学校の教育をしています。まさに地域と共に歩む。そして、ジオパーク学習の積極的な展開等々も、他市に比べても絶対引けを取らないすばらしい実践が、各学校で行われていることは皆さんご承知のことと思います。

その中で、さらに小規模校の中で、どういう特色を出していくかについては、やっぱり学校の考え、教育委員会の考え、そして地域がそれに賛同するかどうか、それが1つの教科になるのか、あるいはジオパーク学習みたいなものになるのか、あるいは体験学習にうんと力を入れる学校を造るんだというふうになるのか、その辺の分野の特色づけ、教育課程をつくるというふうな編集については、やっぱり協議が必要だろうと思うし、あくまでもやっぱり学校主体でどのような考えを持っているかということについて尊重したいなというふうに思っています。それに地域の応援が必要だし、教育委員会の応援・支援みたいなものも、それに絡んで1つの学校が出来上がっていくんだろうというふうに展望しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

（2）についてなんですが、フリースクール等利用支援補助金、これは上越市と妙高市は、もう既に導入しておりまして、やすづか学園を想定してつくられた制度だそうです。

糸魚川においては、やすづか学園に通学した事例がなかったというふうにお伺いしたんですけども、この春からフリースクールが市内にできまして、今12人の生徒が在籍しております。このような場所ができたことで必要な支援だと思うんですけども、その部分いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

数年前なんですけど、やすづか学園に通学していた児童が、当市にいました。現在は、おりません。そのときも含めてなんですけど、今制度上、やすづか学園に通う子供に対する助成というのは、現在ありません。また今後、通っている生徒、保護者への助成について、また検討してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 豊君登壇〕

○教育次長（磯野 豊君）

補足させていただきますが、上越市、妙高市ともに義務教育のお子さんを対象に、やすづか学園入校されている方へ支援をしているという現状であります。

こないだの一般質問の通告書にありましたTUMUGUプロジェクトについては、いわゆる義務

教育を卒業後ということですので、今、課長の検討するという答弁いたしました。そういった違いがあるということをご理解いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ありがとうございます。やすづか学園に通っていた子もいたということで、失礼いたしました。

今、12人の子が、TUMUGUプロジェクトの運営するフリースクールに通ってらっしゃるということで、糸魚川の実情に対して、こういう場所ができてよかったなと思うんですが、小中学校でもやっぱりそういう場所は必要だと思います。早急に、今、調査検討中なんですけれども、居場所づくりについてご検討いただければと思います。

また、幼少期からの体験の積み重ね、失敗しても安心してトライする土壌づくり、選択肢を増やすというのは大切だと思いますので、その辺り、教育長からお考えをお聞かせいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

お答えいたします。

やっぱり子供にとって発達段階、成長段階において、それぞれの段階において、自分が安心していれる。そしてまた交流できる。しかも学べるというふうな機会は、やっぱり学校や家庭以外に絶対私は必要だろうと思います。どんなふうに整備していくかという部分についてはなかなか難しい面がありますけれども、それぞれの子供たちがやっぱり安心して伸び伸びというような部分のところを、じゃあ発達段階に応じて学校ではどうなんだろうか、中学校ではどうなんだろうか、義務教育終わった後の高等学校に行ったらどうなんだろうか、高等学校を卒業した後はどうなんだろうかというような部分のところを、やっぱり体系立ててプランニングする中で、適時適切な場所探し、そしてやっぱり合意形成を経て、そこら辺りのところはやっぱり行政の範囲の中で、あるいはNPO法人との協働の中で、探しながらつくっていくというふうな考えが基本だろうというふうに私は考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

引き続き調査検討を市長にも報告をしながら、検討していただければと思います。

以上です。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。